

# 慈明院寺報七月号

お施餓鬼 灯籠供養法会のご案内（別紙参照）

## 餓鬼飯（がきめし）の功德



「餓鬼飯（がきめし）持つてきてくれ。」高野山で修行中に兄弟子から頼まれた一言である。何とも不味（まず）そうな名前であるが、これはお盆に帰られる仏様を迎える為のお供えである。ナスやカボチャをさいの目に切り、洗ったお米とませたモノである。高野山では「まごじや」とか「水の実」とも呼ぶらしいが、修行中の小僧さんはみんな「餓鬼飯」の通称で呼んでいる。

（写真のお椀の供物が餓鬼飯）

この餓鬼飯をフキやイタドリといった幅広の葉っぱにのせて、お墓にお供えて仏様をお迎えするのである。お墓があるだけこの餓鬼飯を供える。高野山・奥の院には2kmにわたる墓地に二十万基以上のお墓がある。お迎えする仏様のお墓を間違わないように、線香と高野槇、餓鬼飯を持って奥の院中を走り回る。

お釈迦様の十大弟子の中で「多聞（たもん）（ききかた）第一」といわれた阿難尊者（あなんそんじや）といふ僧侶がおられた。ある日、阿難尊者が瞑想していると突然「焰口（えんく）」という餓鬼が現れた。餓鬼が言うには「お前は三日後に死んで、私のように醜い餓鬼に生まれかわるだろう。」阿難尊者は驚き、どうすれば良いかを餓鬼に問うた。

すると餓鬼が言うには「われら餓鬼道に墮ちた苦の衆生、全ての困苦の衆生に飲食を施すならば、餓鬼に生まれかわる苦しみから逃れられる。」という。しかし、阿難尊者は修行僧・・・施しをしようにもお金がなかつた。そこでお釈迦様より「觀音菩薩の秘呪（ひじゆ）」とされる一椀（いわん）の食物を、無量（むりょう）の食物に増やす（ちようめい）とされた。餓鬼飯は施しの心を込めた一碗の供養そのものである。住職 合掌

来る令和四年 七月三十日（土曜日）夕方七時より

\*紙灯籠（かみとうろう）に亡くなつた仏様の戒名（かいみょう）や、先祖供養を謹書して灯籠に火を点し夕闇（ゆうやみ）の中、数人の僧侶で読経してご供養を勤めます。どなたでもご参拝頂けます。（マスク着用でご参拝賜ります様、お願ひ申し上げます。）

\*ご供養をお申込み頂いた紙灯籠は、お盆（八月十五日）まで本堂に安置してご供養致します。またお盆の灯りとしてお持ち帰り頂いても構いません。法会終了後、希望される方は灯籠をお渡しします。

## お盆のお参りについて

各檀家様には、七月中旬に「お盆参りのお知らせ」をお送りさせて頂きます。お忙しい時期とは存じますが、宜しくお願ひ申し上げます。隨時、お参りについてのお問い合わせ、変更等承ります。

住職 九拜

## 住職のひとりごと

暑中お見舞い申し上げます。雨が少なく水不足が心配な今日この頃・・・節電・節水、しかし命を守る為、冷房をガマンしない！十分水分をとる！何事も無理をせず、極端にかたよらず、皆様お身体ご自愛下さい。合掌



慈明院（〒八一一一三一 福岡市早良区大字西二三四一ー二〇）

TEL（〇九二）八〇四一四五七〇 FAX（〇九二）八〇四一四六〇五

お釈迦様より「觀音菩薩の秘呪」とされる一椀の食物を、無量の食物に増やす

（五二八一）一七四九四

とされる。餓鬼飯は施しの心を込めた一碗の供養そのものである。住職 合掌

住職・吉住大慈

携帯電話〇九〇一（五二八一）一七四九四